

## 地域医療連携フォーラム開催

# 熊本市での病診連携等を紹介

地域完結型連携システムは土台作りが重要

11月10日に長崎市で地域医療連携フォーラム  
「地域で守り育てる医療連携」病診連携、熊本の事例に学ぶ」を行い、県下各地から30人が参加しました。講師は熊本協会



井清司先生



森永博史先生

の協力で森永博史先生（同会副会長・開業医）、井清司先生（同会勤務医委員会委員）にお願いし、協会実施の「病診医科歯科連携アンケート結果」を本田会長が報告しまし

た。

冒頭、本田会長は「診療情報提供書等の発行頻度は高く、連携は進んでいると見れるが、周術期口腔管理や在宅医療、病院退院後の患者フォローでは改善の余地がある」と提起しました。

井清司先生は熊本市赤病院救急部長の経験をもとに、「救急の充実なしで病院の将来はない」と述べ、救急を含めた病院の将来像を描きながら、

転院・退院支援業務の組織化のほか、地域完結型医療及び救急医療の方向性、開業医との連携の在り方などの成功例を示しながら病院の土台作りを説明しました。

森永博史先生は急性期医療も担う有床診療所で



熊本の地域医療連携システムについて学ぶ参加者

もあり、「基幹病院から開業医への紹介が進めば相互が喜ぶ」と診療報酬での評価を説明しながら、医療機能分化・連携で地域全体で高齢化社会に対応すること、望まない医療を避けるためにもアドバンス・ケア・プランニングが必要なことも紹介しました。さらに、歯科医科連携は保険医協会が得意とするところで歯科医師会との積極的な連携、共済制度のスケールメリットを活かした勤務医の組織化を強調しました。討論では、退院時の紹介元への連絡の有無、病院単独ではない基幹病院間の連携も含めた地域包括ケア確立などで意見が出されました。